

発行所 長岡鉄工業協同組合 長岡市表町3-1-8 リナシエビル3 8階 ☎0258 (36) 6982 表題筆者 大原松夫 発行責任者 大原興人 編集責任者 柴木 樹 印刷所 (株)北越時報社

感謝

JPC株式会社 代表取締役 吉原 誠 「私たちは感謝を大切にします。」
〒940-2023
本社 新潟県長岡市蓮沼町字五郎作428番地15 TEL.0258-89-7577

TEKKOU NO HIKARI

てっこの光

長岡鉄工業協同組合 機関紙

●一般 土木工事一式
●解体 はつり工事一式
●産業 廃棄物処理業
●木くずコンクリートがれき類 破砕処理

(株)新潟ジーゼル工業

特定建設業許可(土・工・建)ISO9001取得
建設解体工事・路面切削工事・除雪作業
路面清掃作業・アスベスト除去工事
産業廃棄物収集・運搬・中間処理
(木くず・コンクリート・アスファルト一般受取)・再生資材販売

長岡市高島町860番地1
TEL 0258 (23) 2527(代)



2月25日(日)、アオーレ長岡を会場に「長岡ものづくりフェア2024」を開催しました。リアルでの開催は4年ぶりでしたが、今回は、ものづくり体験ブース、企業PRブース、ロボットブースなど60ブース、計64企業・団体から出展をいただき、同時開催の「メイカーズなおかまつり」と合わせると約80と過去最高の出展数となりました。

当日は、大人から子どもまで延べ約11,000人という非常に多くのお客さんからおいでいただき、体験ブースなどでは金属、木材、紙などの様々な素材を使ったものづくりや電子工作、プログラミング、ロボット操作、新聞作成、動画作成など幅の広い体験を楽しんでいただきました。

今回は、初めての試みとして、地元のものづくり企業を知ってもらい、将来やってみたい仕事を子どもたちに探して

長岡ものづくりフェア2024を開催

長岡ものづくりフェア実行委員会 委員長 柴木 樹

てもらおうという目的のもと企業PRブースを、子どもたちと企業のみならずとの交流イベントとして名刺交換ラリーを実施しました。子どもたちが会場でオリジナルの名刺を作り、ブースで名刺交換をして企業のみならずの名刺を集めると景品がもらえる企画で、会場のあちこちで子どもたちの「将来の夢」や「得意なこと」が書かれた名刺を見ながら、企業の方と来場者がコミュニケーションをとる様子が見られました。

今回の開催にあたり、関係者の皆様から実施の趣旨に御賛同いただき、多大な御支援、御協力を賜りましたことを、心から御礼申し上げます。

フェアの目的である「長岡のものづくりをサポートする企業や学校がどの様に社会に貢献しているか、優れた商品・技術、そこで働く人の努力や思いを長岡地域の子どもやその保護者に知ってもらおう」「長岡のものづくりを様々な方に知っていただき、注目されること、Uターン・Iターンに繋げ、長岡を活性化させる」とおり、ものづくりに関心を持つ子どもたちやそれを後押しする保護者が増えることとなれば、嬉しく思います。

今後も、フェアのみならず様々なイベントや展示会などの機会をとらえ、「長岡のものづくり」を代表する基幹産業である鉄工業を長岡市内外へ向けて発信し、人材確保及びビジネスの活性化をはかっていきたいと思います。

てもらうという目的のもと企業PRブースを、子どもたちと企業のみならずとの交流イベントとして名刺交換ラリーを実施しました。子どもたちが会場でオリジナルの名刺を作り、ブースで名刺交換をして企業のみならずの名刺を集めると景品がもらえる企画で、会場のあちこちで子どもたちの「将来の夢」や「得意なこと」が書かれた名刺を見ながら、企業の方と来場者がコミュニケーションをとる様子が見られました。

今回の開催にあたり、関係者の皆様から実施の趣旨に御賛同いただき、多大な御支援、御協力を賜りましたことを、心から御礼申し上げます。

フェアの目的である「長岡のものづくりをサポートする企業や学校がどの様に社会に貢献しているか、優れた商品・技術、そこで働く人の努力や思いを長岡地域の子どもやその保護者に知ってもらおう」「長岡のものづくりを様々な方に知っていただき、注目されること、Uターン・Iターンに繋げ、長岡を活性化させる」とおり、ものづくりに関心を持つ子どもたちやそれを後押しする保護者が増えることとなれば、嬉しく思います。

今後も、フェアのみならず様々なイベントや展示会などの機会をとらえ、「長岡のものづくり」を代表する基幹産業である鉄工業を長岡市内外へ向けて発信し、人材確保及びビジネスの活性化をはかっていきたいと思います。

株式会社 ハヤカワロストワックス
代表取締役社長 内堀 博

当社ブースには181人もの方にご来場頂きました。9時30分のスタートから15名前後の列が出来、2分/回の体験に30分待ちとなり、これが16時30分の終了まで続きました。6名の当社スタッフが休む間も無い程の賑わいでした。当社ブースでは小学校低学年でも簡単に出来るように、このイベントのために用意した道具を使い、ロウ模型を作る体験をしてもらいました。体験した子どもたちからは「かわいいのが出来てうれしい」

■ 出展者の感想

株式会社 難波製作所
代表取締役 難波 博繁

長岡ものづくりフェアに初めて出展させていただきました。弊社はものづくり体験ブースにて、山古志の闘牛をイメージしたステンレスクラフトと機械にて細かく切断した金属片(銅や真鍮、アルミ)を使用した万華鏡づくりを体験していただきました。

当初は興味を持ってもらえないのか不安でしたが、予想に反し子どもたちの楽しそうに、また真剣に体験している姿を見て出展して良かったと素直に思いました。

今回の体験を機に子どもたちが将来、ものづくりに興味を持つきっかけになり、体験を通して得た楽しさや達成感が、将来に素晴らしい影響を与えることを願っています。

「もう一度やりたくてまた来たよ」などの声を頂き、ものづくりの楽しさを少しでも感じて頂けたものと思います。

今後も長岡のものづくりに関わる人材の増加と長岡の活性化や発展に繋がるイベントに積極的に参加し、地元貢献して参ります。

株式会社 長岡歯車製作所
代表取締役 加納 孝樹

ぐるぐるっ!ぐるぐるぐるっ!!速く回しちゃダメだよ。ゆっくり回してね。わー!!ぐるぐるっ!!ぐるぐるぐるっ!!へー、歯車屋さんがあるんだ、ぐるぐるっ!!わー。おー!!すー!!い、ぐるぐるっ!!と、一日中、ひっきりなしに子どもたちがやってきて、笑顔で歯車を回してくれました。緑の下の力持ち、そんな歯車を知ってもらえた長岡ものづくりフェア、僕らも気づきの時間になりました。

マコー 株式会社
代表取締役 浅井 嘉久

当社ブースでは、当社のコア技術であります「ウェットブラスト」によって表面に模様付けを行うことで、オリジナルの小物入れやペン立てを作る体験を行いました。子どもたちには、機械を実際に操作してもらい、実際に操作しながら楽しさを感じてもらえたと思います。想像を超える来場者の数に驚きましたが、それだけ多くの子どもたちがものづくりに興味を持って足を運んでくれたことを嬉しく思います。来年以降も出展し、少しでも多くの子どもたちにものづくりの楽しさを伝えられたらと思います。

株式会社 広井工機
代表取締役 廣井 晃

ワラから縄を作る体験と教育用3軸加工機を展示しました。子どもたちには、ワラ縄を作る体験が好評でした。レトロな機械に昔を懐かしむ方もたくさんおられました。技術者の方には、一つの駆動ですべてを動かす機構に興味を持っていただきました。たくさんの方のご来場者と開催関係者に感謝いたします。



長岡鉄工業青年研究会
会長 清水 一裕

当会は1枚のアルミの板を折り曲げ、ティラノサウルスやトリケラトプスになる「アルミペンホルダー作成」を行い、延べ340名の参加、板金・溶接加工をした展示物「IRON REX」の写真撮影620名と順番待ちの列が絶えないほど、老若男女問わず大変多くの方に当会のブースにお立ち寄りいただきました。

参加者からは曲げ作業の難しさや金属に触れることの物珍しさ、なにより「楽しい」「またやりたい」など、ものづくりに興味を示す声をいただくことが出来ました。ご協力いただきました誠にありがとうございました。

弊社では2月に全社員にタブレット端末を支給しました。現場作業者が自分の作業場で日程の管理や必要な情報へのアクセスを容易にするために導入しましたが、全員がネットワークに接続できる環境を用意することにより、コミュニケーションの活性化や申請・決裁の迅速化など、さらに色々なことができるのではないかと可能性を感じています。このような取り組みを通じて働きやすさと魅力を兼ね備えた職場を作り上げるために、これからも試行錯誤を重ねていきたいと考えております。

(永井)

中小企業にとっては、採用活動が一層厳しい時代となってきました。大手企業では初任給の大幅アップが連日報道され、IT企業などでは初任給が30万円を超える企業も増えてきています。採用が困難なだけでなく、政府は社会人の学び直しから転職までを支援する制度を推進しており、既存の社員の雇用継続も難しくなっていくのではないかと予想されます。内部留保が少ない我々中小企業にとって、簡単に賃金を引き上げることが容易ではありません。いかに自社の強みや魅力をアピールし、また、いかに社員のモチベーションや満足度を高めていくかが、喫緊の課題となっています。

弊社では2月に全社員にタブレット端末を支給しました。現場作業者が自分の作業場で日程の管理や必要な情報へのアクセスを容易にするために導入しましたが、全員がネットワークに接続できる環境を用意することにより、コミュニケーションの活性化や申請・決裁の迅速化など、さらに色々なことができるのではないかと可能性を感じています。このような取り組みを通じて働きやすさと魅力を兼ね備えた職場を作り上げるために、これからも試行錯誤を重ねていきたいと考えております。

(永井)

2024年は、能登半島の地震や羽田空港での日本航空と海上保安庁の航空機衝突事故など、衝撃的なニュースから始まりました。また、政治家の裏金問題や、終息の見えないロシアによるウクライナ侵攻など、暗い話題が続く中で、世の中はますます不透明さを増しています。